

平成 27 年度  
「大学生の力を活用した集落復興支援事業」  
活動報告書



国立大学法人 福島大学  
割り箸から環境を考える会  
平成 28 年 3 月 18 日

# 目次

1. はじめに.....	2
2. 南会津町中荒井地区の概要.....	3
(1) 位置・地勢.....	3
(2) 人口.....	4
3. 調査概要.....	5
(1) メンバー構成.....	5
(2) 調査活動の日程.....	5
4. 活動詳細.....	6
(1) 第一回 現地調査 地区の方との交流会.....	6
(2) 第二回 現地調査 中荒井区長さんとの打ち合わせ.....	7
(3) 第三回 現地調査 中荒井区長さんとの打ち合わせ.....	7
(4) 第四回 現地調査 中荒井散策・ワークショップ等.....	8～9
(5) 第五回 現地調査 如活祭への参加.....	9～10
(6) 第六回 中荒井区長さんによる福大祭視察.....	11
(7) 第七回 現地調査 伝統行事である「歳の神」への参加.....	11～12
(8) その他の諸活動.....	12～13
5. 現地調査を終えて見つけた地域資源（宝）と活性化案.....	14
6. 最後に.....	15
7. 参考文献.....	16
8. 参考資料	
①中荒井地区活性化案・旧中荒井分校活用案についてのワークショップまとめ	
②地域版 SWOT 分析結果	
③中荒井地区住民アンケート集計結果	

## 1. はじめに

私たち福島大学割り箸から環境を考える会（以下、わりかん）は、福島大学生 5 名で活動しているサークルである。平成 23 年度より、中荒井地区で実施されている間伐体験ツアーである「森林の楽校」の企画・運営を行ってきた。現在のサークル名の由来はそこからである。そしてこの活動を通して、農山村の現状を目の当たりにしたことがきっかけで、この地区の活性化のためにできることをみつけないかと考えていた。そこで平成 27 年度から、福島県庁の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を活用し、中荒井地区活性化のための一歩を歩み始めた。また、平成 28 年度より、サークル名を「とげっちょ組～地域活性化サークル～」と改名し、本格的に地域活性化をメインとしたサークル活動を行う予定である。ちなみにとげっちょとは絶滅危惧種に指定されているトゲウオ科のイトヨのことである。南会津に生息し地域に馴染み深いことからこの名前をサークル名とした。

この報告書は、平成 27 年度 1 年間の実態調査についての活動報告をまとめたものである。

## 2. 南会津町中荒井地区の概要

### (1) 位置・地勢



図 1.南会津町の位置



図 2.中荒井地区の位置

福島県南会津は、福島県南西部に位置し、平成 18 年 3 月 20 日に田島町・舘岩村・伊南村・南郷村が合併して誕生した町である。図 1 は南会津町の位置を示したものである。中荒井地区は、旧田島町内にあり南会津町中心部から南方向に約 4 km のところにある。図 2 は南会津町での中荒井地区での位置を示したものである。集落内には国道 121 号線が走り、(株)会津鉄道会津線中荒井駅がある。

集落は河川段丘上であり、集落の東側と西側は山が連なっている。西側に日本海に注ぐ阿賀野川が流れ、阿賀野川の左岸に沿って町道永田・藤生線が伸びている。また、南会津町の西側にある栗生沢集落へ伸びる町道の栗生沢線もある。

集落内の農地では、水稲・アスパラガス・ソバ・りんご・野菜などが生産されている。昭和 62 年度に農林地一体事業で整備された耕地は、農業生産法人がソバ・アスパラガス等を栽培している。だが、次に述べるように、少子高齢化が進行し、高齢者が減少し、農地の維持管理が困難となっている。

(2) 人口

南会津町中荒井地区（2014）によると、平成26年1月1日時点の人口は366人で、（そのうち男性は181人、女性は185人である。）世帯数は132世帯で、（そのうち一人暮らし世帯は20世帯である。）

表1は、平成26年1月1日時点の年齢階層別の状況と高齢化率を示したものである。65歳以上の人口を総人口で割った高齢化率は35.5%となっている。このように高齢化の影響も影響してか、空家数は32戸となっている。

表2は、出生・死亡がなく現在の人口構成で、全員が5歳増えた場合の、平成31年1月1日時点の年齢階層別の人口と高齢化率を示したものである。高齢化率が53.0%になることが示されている。

表.1 年齢階層別の人口と高齢化率（平成26年1月1日時点）

「年齢階層別の人口と高齢化率」

年齢層	人口(人)	高齢者(人)	高齢化率
0歳～9歳	29		
10歳～19歳	31		
20歳～29歳	18		
30歳～39歳	38		
40歳～49歳	32		
50歳～59歳	46		
60歳～69歳	63	21	
70歳～79歳	62	62	
80歳～89歳	37	37	
90歳以上	10	10	
計	366	130	35.5

出典：南会津中荒井区（2014）

表 2.年齢階層別の人口と高齢化率（平成31年1月1日予想）

「5年後の年齢階層別の人口と高齢化率」

年齢層	人口	高齢者数	摘要
0歳～9歳			
10歳～19歳	29		
20歳～29歳	31		
30歳～39歳	18		
40歳～49歳	38		
50歳～59歳	32		
60歳～69歳	46	22	
70歳～79歳	63	63	
80歳～89歳	62	62	
90歳以上	47	47	
計	366	194	53

出典：南会津中荒井区（2014より）

### 3. 調査概要

#### (1) メンバー構成

メンバーの構成は次のとおりである。

代表：岩淵 健太（福島大学 経済経営学類 3年）

メンバー：名淵 凌平（福島大学 経済経営学類 3年）

久世 大城（福島大学 経済経営学類 3年）

橋本 悠太（福島大学 経済経営学類 1年）

吉田 小雪（福島大学 行政政策学類 3年）

指導教員：沼田 大輔（福島大学 経済経営学類 准教授）

#### (2) 調査活動の日程

表3は、平成27年度に実施した調査活動の日程を示したものである。

表3. 平成27年度に実施した活動日程

	日時	活動内容
第一回	平成27年 6月7日(日)	中荒井地区の方との交流会
第二回	平成27年 7月12日(日)	中荒井区長さんとの今後の打ち合わせ(代表のみ)
第三回	平成27年 7月18日(土)	中荒井区長さんとの今後の打ち合わせ(指導教員のみ)
第四回	平成27年 9月1日(火) 9月2日(水)	1日午後 間伐材伐採体験 旧中荒井分校見学 2日午前 あたご共同作業所の見学 郷土料理作り 午後 ワークショップ 次回訪問のための打ち合わせ
第五回	平成27年 10月24日(土) 10月25日(日)	24日午後 如活祭準備 ・御護符の笹巻づくり及び割り箸の袋詰め作業等 ・会場の下見 ・如活祭実行委員の方々との交流会 25日 如活祭当日 ・運営のお手伝い ・活動紹介のパネル設置 ・慰労会での区民の方々との交流
第六回	平成27年 10月31日(土)	中荒井区長さんによる福大祭視察
第七回	平成28年 1月16日(土) 1月17日(日)	16日午後 伝統行事である「歳の神」への参加、交流 17日午前 集落内視察 午後 地区役員の方々と地域版SWOT分析 アンケート調査回収
	平成28年 2月7日(日)	地域づくりオープンカフェ
	平成28年 2月8日(月)	福島県知事表敬訪問

## 4.活動詳細

### (1) 第一回 現地調査 地区の方との交流会

- ・日時： 平成 27 年 6 月 7 日 9 時～13 時
- ・場所： ふれあいグラウンド
- ・出席者： 中荒井区民等： 40 名  
大学関係者： 26 名
- ・内容：
  - ・地区の方とのグラウンドゴルフ大会
  - ・地区の方とともに昼食



写真 1. グラウンドゴルフを楽しむ様子



写真 2. グラウンドゴルフ後の集合写真

**(2) 第二回 現地調査 中荒井区長さんとの打ち合わせ**

- ・日時： 平成 27 年 7 月 12 日（日）11 時～14 時
- ・場所： 中荒井区長宅
- ・出席者： 中荒井区長、岩淵健太
- ・内容：
  - ・次回現地調査の打ち合わせ
  - ・大学祭視察のための打ち合わせ
  - ・集落調査

**(3) 第三回 現地調査 中荒井区長さんとの打ち合わせ**

- ・日時： 平成 27 年 7 月 18 日（土）14 時～16 時
- ・出席者： 中荒井区長、沼田准教授
- ・内容：
  - ・これからの諸活動に関する打ち合わせ

#### (4) 第四回 現地調査 中荒井散策・ワークショップ等

- ・日時： 平成 27 年 9 月 1 日（火） 13 時～19 時  
9 月 2 日（水） 9 時～17 時
- ・場所： 中荒井地区内
- ・出席者： 9 月 1 日…大学関係者： 38 名、中荒井区民： 9 名  
9 月 2 日…大学関係者： 38 名、中荒井区民： 18 名
- ・内容 9 月 1 日
  - ・如活祭会場でもある森林にて間伐体験
  - ・「旧中荒井分校」見学  
→昭和 34 年に廃校となり、荒海小学校へ統合。  
現在、福島大学農学類サテライト校としての誘致要望を行っているところである。
  - ・中荒井地区活性化案・旧中荒井分校活用案についてのワークショップ  
(このワークショップのまとめは、「8. 参考資料の①」を参照下さい)
  - ・地区の方々との交流会（このときあたご共同作業所から特注で箸袋を準備してくれました。写真 7 参照）
- 9 月 2 日
  - ・「あたご共同作業所」の見学  
→地区内にある授産施設である。ここで間伐材割り箸が作られ、様々な大学生協で使用されている。
  - ・次回訪問のための打ち合わせ



写真 3. 間伐体験



写真 4. 旧中荒井分校見学



写真 5. あたご共同作業所見学



写真 6. ワークショップ

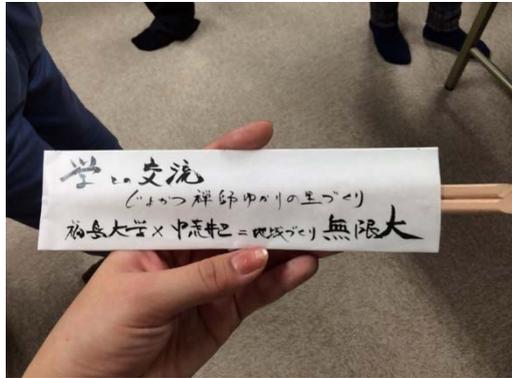


写真 7. 特注の箸袋

#### (5) 第五回 現地調査 如活祭への参加

- ・ 日時： 平成 27 年 10 月 24 日（土）13 時～19 時  
10 月 25 日（日）9 時～18 時
- ・ 場所： 中荒井地区内
- ・ 出席者： 10 月 24 日…大学関係者：9 名、中荒井区民：多数  
10 月 25 日…大学関係者：11 名、中荒井区民：多数
- ・ 内容： 10 月 24 日
  - ・ 参拝者へ配布する御護符の笹巻づくり、割り箸の袋詰め作業等
  - ・ 会場の下見
  - ・ 如活祭実行委員の方々との交流会  
→如活祭とは如活禅師を偲ぶお祭りである。年に一度しか開けられない焼き台を使いしんごろうを焼いたり、そば、甘酒、菊茶など地元の郷土料理を味わうこともできる。特設で舞台も作られ語り部を聞くこともできる。  
※しんごろうとはうるち米を竹串に刺し、じゅうねん味噌を塗り炭火で焼いたもの。

10月25日

- ・如活祭運営のお手伝い
- ・学生の活動紹介パネルの設置
- ・慰労会で区民の方々との交流



写真 8. 包まれた御護符



写真 9. 如活禅師墓前にお供



写真 10. 活動報告展示パネル



写真 11. しんごろう作りのお手伝い

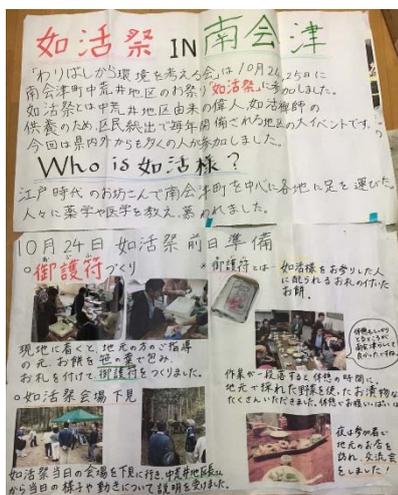


写真 12. 如活祭後のまとめ

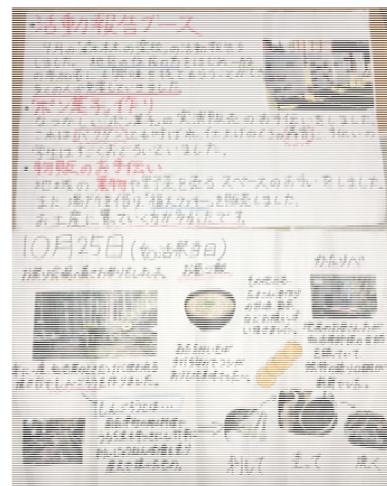


写真 13. 活動報告展示パネル

(6) 第六回 中荒井区長さんによる福大祭視察

- ・日時： 平成 27 年 10 月 31 日 (土)
- ・場所： 福島大学
- ・出席者： 中荒井区長、福島大学生 6 名
- ・内容：
  - ・中荒井地区 PR のための模擬店出店  
(あら汁・アスパラの素焼きとともに、あたご共同作業所の商品を販売)
  - ・来年度の共同出店の可能性を検討

(7) 第七回 現地調査 伝統行事である「歳之神」への参加

- ・日時： 平成 28 年 1 月 16 日 (土) 13 時～18 時  
1 月 17 日 (日) 10 時～16 時
- ・場所： 中荒井区内
- ・出席者： 1 月 16 日-17 日 (福島大学生：4 名、中荒井区民：多数)
- ・内容：
  - 1 月 16 日
    - ・「歳之神」への参加  
→「歳之神」とはどんと祭みたいなものである。
    - ・地元の方との交流
  - 1 月 17 日
    - ・集落内散策
    - ・区民の方との地域版 SWOT 分析  
(SWOT 分析結果は「8. 参考資料②」を参照してください)
    - ・地区住民の方へ学生にどのようなことを期待しているか、  
地区の自慢などを聞くためのアンケート回収  
アンケート回収  
(アンケート集計結果は「8. 参考資料の③」を参照してください)



写真 14. 歳の神



写真 15. お昼ご飯の手打ちそば



写真 16. SWOT 分析

## (8) その他の諸活動

### a. 地域づくりオープンカフェ

- ・日時： 平成 28 年 2 月 7 日（日） 13 時～16 時 20 分
- ・場所： エスパル福島 5 階ネクストホール
- ・内容：
  - ・ナリワイ代表 伊藤洋志さんの講演会
  - ・各大学の活動報告
  - ・地域定着者、地域おこし協力隊の方の事例発表



写真 15. 活動報告パネル前

b. 福島県知事表敬訪問

- ・日時： 平成 28 年 2 月 8 日（月） 9 時～12 時
- ・場所： 福島県庁
- ・内容：
  - ・福島県知事への活動報告



内堀県知事への活動報告

## 5. 現地調査を終えて見つけた地域資源（宝）と活性化案

私たちは計 7 回の現地調査等での現地の方々との交流、ワークショップ、SWOT 分析等から、中荒井地区における地域資源（宝）の一つとして如活禅師を取り上げることにした。

如活禅師を地域資源として選択した理由は、1 つ目に住民の方々が如活禅師への誇りを持っていること、2 つ目に 10 月に行われている如活祭を伝統とし、地区住民の間に共有の価値観を生み出していること、3 つ目に県外から如活祭に多くの訪問者がある点である。3 つ目の県外からの訪問者に関しては、たまたま近くを通りかかって寄ってみたといった意見が多かったが、この地区をアピールするための場としては十分であると考ええる。

具体的な集落活性化案として、①中荒井地区の住民自身が生活をより良いものにしようと行動する（内部向け）、②如活祭などについての情報発信により中荒井地区の認知度を高める（外部向け）の 2 つに分類し、それぞれに合った案を考えた。

①の内部向けの活性化案としては、中荒井地区の写真集の作成である。これは中荒井地区の方々からこれまでの思い出の写真を募集し、様々な文献から中荒井に関する記述を探し、地区の歴史をまとめた写真集を作成するものである。そして、これによって地区住民の方に地元の良さを再認識してもらえるきっかけになることを目的としている。②の外部向けの活性化案としては、ホームページの作成、酒造ウォークラリーの 2 つを考えている。ホームページの作成は中荒井地区を PR するための情報発信の場として、また私たちの活動をより多くの人に知ってもらうためのツールとして活用していくつもりである。酒造ウォークラリーに関しては、中荒井地区内に男山酒造があることからこの案を考えたが、ウォークラリーをするほど近くに酒造が密集していない点、似たような取り組みがいくつもある点から、ウォークラリーという形にとられず、何らかの形で「男山酒造×福大」といった企画ができるように努力していきたい。

## 6. 最後に

今回、福島県庁の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の1年目として活動を行ってきたが、本当の意味での集落活性化を行うには、1年や2年ではできないと感じた。

だからこそ私たちのような若い世代が継続的に集落に入り、集落のために何をできるのかを考え続け、新たな取組を実行しつづけていかなければならないと思った。

中荒井地区の渡部区長さんのお話しの中でとても印象に残っている言葉がある。それは、「震災からの復興に関してはみんな関心がある。しかし、中山間地域での少子高齢化・過疎化などの社会問題となっているものが震災復興という大きな課題の中に埋もれてしまっているのではないだろうか」という言葉である。たしかに、大学内のサークルに震災復興を目的としたボランティアサークルはあるが社会問題である少子高齢化・過疎化をメインとしたサークルは見当たらなかった。震災復興は福島県の重要な課題である。が、中山間地域での社会問題に関する取組も広く発信し、若い世代をはじめ、多くの方々に興味を持ってもらいたい。

私たち福島大学割り箸から環境を考える会は、平成28年度から「とげっちょ組～地域活性化サークル」と改称し、中荒井地区がなる活動を継続して行うことなどを通して、福島県での中山間地域での社会問題の解決につながる取組を多くの方々とともに様々に展開し、最終的に福島県での中山間地域での社会問題の解決につなげていきたいと考えている。来年度の福島県庁の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」では、さらに新たな展開を生み出せるよう、全力で取り組む所存である。今後とも、ご指導のほど、どうぞよろしく願いいたします。

## 7. 参考文献

- ・南会津中荒井区（2014）『なかあらい地域活性化（元気づくり）計画書～じよかつ禪師ゆかりの里づくり～』 平成 26 年 3 月作成、福島県地域づくり総合支援事業（サポート事業）補助対象事業
- ・南会津町観光物産協会 ([www.kanko-aizu.com/](http://www.kanko-aizu.com/))
- ・Google マップ (<https://maps.google.co.jp/>)

## 7. 参考資料

### ①中荒井地区活性化案・旧中荒井分校活用案についてのワークショップまとめ

表4は平成27年9月1日に中荒井地区で実施した、「中荒井地区活性化・旧中荒井分校活用案についてのワークショップ」での意見をまとめたものである。このワークショップの狙いは中荒井地区を元気にするための案を学生ならではの視点で自由に出してもらいこれから活動していく上でのアイデアを掴むことである。学生だけで判断できない部分も考慮し、班構成は1グループ5～6名の学生+中荒井区民1名の計5グループで行った。

表4は活性化案を【学び】、【地域活用】、【農林業】、【収益】、【空き家対策】の5つの分野に分けたものである。学び分野では中荒井地区にある自然をベースに考えたものが多く、老若男女幅広い世代に対応する案が多かった。地域分野では⑬農産物のブランド化、⑰清流に魚を放し子供たちの遊び場づくり、など実例があり比較的取り組みやすい意見がある一方、⑤娯楽施設、⑧映画、ドラマのロケ地など、受け入れるための整備にコストがかかりそうなものが多くあった。また、学生の意見として音楽フェスの誘致などの意見もあったが、中荒井地区への集客を目的とするのか、定住を目的とするのかを明確にしなければならないと思った。農林業分野では体験施設に偏ってしまった印象はあるが、⑩の間伐材を活用したバイオマス発電といった福島県での再生可能エネルギー推進ビジョンとも関連し、取り組みが広がりそうな意見があった。収益分野では、地域分野と同じく、受け入れるための整備や体制づくりが大変そうな意見もあったが、地元の雇用創出に繋がる案もあった。また⑫郷土食「しんごろう」専門店といった他にはないユニークな意見もあった。空き家分野では3つの意見が挙げられたが、空き家所有者が県外へでていて、自由に使えるようにするのは難しいといった地元の方の意見もあった。

表 4. ワークショップでの意見のまとめ

【学び】	【地域活用】
①昔遊びの会(お年寄りと子どもの交流)	①中荒井版ダッシュ村の誘致
②木造工作体験教室	②グラウンドゴルフの練習場
③図書館(公民館)児童館	③避難所、災害用資材のストック施設
④学習センター	④子供のための運動場
⑤少年自然の家に類似した施設	⑤娯楽施設
⑥芸術家に学校全体に絵をかいてもらう	⑥屋内運動施設
⑦小、中学生を対象とした学習支援の場とし、大学生が指導に当たる	⑦高齢者のための福祉施設(娯楽施設)
⑧都会の子供が自然に触れる教育の場としての利用	⑧映画、ドラマのロケ地
⑨南会津の地域づくりを学ぶ拠点及びインターン研修の宿泊施設	⑨宿泊、キャンプ、コテージ施設
⑩地域の伝統の技を伝承できる学習の場	⑩宿泊施設+町民の交流施設
⑪自然体験の施設	⑪高齢者が働ける施設
⑫天体観測の拠点	⑫温泉の発掘
⑬模型のジオラマ館	⑬農産物のブランド化
⑭中新井の歴史を子供たちに伝える施設	⑭農地や家屋を安価で貸す
⑮自然を生かした健康増進施設	⑮如活禪師のPR
⑯春夏秋冬を活用した施設づくり	⑯他の地域との交流・情報交換の拠点施設
⑰福島大学のサテライト校舎利用	⑰清流に魚を放し子供たちの遊び場づくり
⑱大学新入生の学外施設としての利用	⑱如活禪師をベースにした交流づくり
⑲学生のインターンシップの拠点施設	⑲民具の製作体験施設
⑳キャンプ場などの施設を整備し山村留学の拠点とする	⑳特産品をふるさと納税の特典とする

【農林業】	【収益】
①農業体験施設	①フランクガーデン(地元の郷土食レストラン)
②農地利用+宿泊施設	②優良農地を活用した道の駅(直売所)
③農林業体験の拠点施設	③工場、企業へ貸し出し
④農業体験で収穫した野菜などで料理体験施設	④木質ペレット製造工場
⑤週末農業体験宿泊施設	⑤都会からの訪問者向けの宿泊施設
⑥そば打ち体験施設	⑥地域の特産品を作り販売する施設
⑦木工加工所・教室等	⑦木工作家による木製家具の生産販売施設
⑧優良農地で栽培した野菜を大学生協の食堂へ提供	⑧カフェ
⑨生薬・薬樹等の栽培	⑨交通の便が良く、中継地点としてのPR
⑩間伐材を活用したバイオマス発電	⑩国道沿いのお店の充実
⑪間伐材チップで発電と熱量の提供	⑪特産品の通信販売と直売所経営
⑫農業体験休憩施設	⑫郷土食「しんごろう」専門店

【空き家対策】
①夏場の空き家限定レンタル
②宿泊施設に転用
③定住し企業を目指す若年層に空き家を提供

## ②SWOT分析結果

表5は、平成28年1月17日に中荒井地区で実施した、「SWOT分析」での意見をまとめたものである。このSWOT分析を行った狙いは、中荒井区民、福島大学生が地区の強み・弱みを再認識し、地域活性化案をさらに深めるためである。班構成は中荒井区民2名、福島大学生3名の5名で行った。

表5は【S（強み）】、【W（弱み）】、【O（強み）】、【T（脅威）】の4つの分野に分けたものである。

表5. SWOT分析結果

<b>【S（強み）】</b>	<b>⑤文化</b>
<b>①自然</b>	
四季ごとに見どころがある	文化財が多い。
春：桜（他より遅く開花を活かす）	如活禅師の歴史がある。
夏：野菜（アスパラ、トマト）	伝統文化が継承されている。
秋：紅葉、如活祭	行事（ミニ文化祭など）が継続されている。
冬：積雪が多い、歳の神	豊かな生活文化がある。
<b>②豊かな自然</b>	<b>⑥人</b>
山、川、かえる。	高齢者の皆さんが元気。
絶滅危惧種であるイトヨの生息。	生活の知恵が豊富。
空気が美味しい。	人家が密集し、近所が近い。
<b>③特産品、産業</b>	お祭りへの出席者が多い。
男山酒造がある。	集落内の環境維持活動が継続されている。
そばの産地。	退職後の趣味が豊富。
りんご園がある。	一生の働き場所がある。
アスパラの栽培。	<b>⑦その他</b>
郷土料理（しんごろう、つゆじ）	原発の放射能が少ない。
授産施設がある（あたご共同作業所）	交通事故が少ない
<b>④土地</b>	無火災が継続
広大な土地がある。	原発の放射能が少ない
優良農地がある。	
広いグラウンドがある。	

<b>【W(弱み)】</b>	<b>④雪害</b>
①施設	冬期間は高齢者が外に出にくい。
宿泊施設がない。	除雪が大変。
小中学校まで遠い。	屋根からの落雪が危険。
メインとなる観光地がない。	国道沿いに除雪した雪がたまり道幅が狭くなる。
文化財が国道から離れている。	排水溝の除雪中に落下する危険がある。 (毎年死亡事故が発生)
②産業	<b>⑤人口</b>
雇用の場が少ない	人口減少。
後継者がいない。	少子高齢化が進んでいる。
中荒井地区特有の産業がない。	農地の荒廃。
③知名度	優良農地の維持管理が困難。
田島に比べ知名度が低い。	先が見えず、諦めにつながっている。
県内における知名度が低い。	限界集落となる脅威。
PRが弱い	生活伝統行事の継承が心配。
④雪害	集落の絆が薄らぐことが心配。
冬期間は高齢者が外に出にくい。	
除雪が大変。	
屋根からの落雪が危険。	
国道沿いに除雪した雪がたまり道幅が狭くなる。	
排水溝の除雪中に落下する危険がある。 (毎年死亡事故が発生)	

<b>【O(機会)】</b>	<b>③立地、交通</b>
①農林業	国道121号線が走っている。
	会津鉄道線が走っている。
農業への関心が高まっている。	集落内に駅がある。
林業への関心が高まっている。	浅草から3時間の距離にある。
全国植樹祭があるので福島 naturally 自然に目を向ける人が多くなるかもしれない。	南会津の中心である田島に近い場所にある。
	林道が整備されており、田島に繋がっている。
②外部の人	県立病院が近い。
	自動車学校が近くにある。
地域おこし協力隊の存在。	尾瀬国立公園に近い。
都会の人の農山村へ目を向けている。	<b>④文化</b>
田舎志向の人の増加。	会津の歴史が注目されている。
若者がは地域内に入る機会が増えた。	日本酒ブーム。
農村移住がある。	外国人観光客の増加。
集落活性化の実例が増えてきている。	日本文化への注目。

<b>【T(脅威)】</b>	③野生動物 →野生動物が路上に出現し自動車と衝突 →農産物への被害 →電気柵の設置費用の増加
①農業	
TPPによる日本農業の衰退。 米価が安く、水田経営を志す人が減少。 風評被害。	④その他
②周囲の環境	不法投棄 自然災害(土砂崩れ、雪、動物) 田舎でできることの常態化
周辺に観光地が多い。 周辺の発展に埋もれてしまう。 周辺の村の認知度が低い。	

<b>【S(強み)、W(弱み)共通】</b>	<b>【W(弱み)、T(脅威)共通】</b>
空き家がなく、活気がないように見える。	「集落」という言葉のイメージ。
一人暮らし世帯が多い。	都会に近く、犯罪が増えているように思う。
廃校がある。	

### ③中荒井地区住民アンケート集計結果

このアンケートは2016年1月に実施した。111戸に配布し、61戸から回答を得た。回収率は55%である。この住民アンケートを行った狙いは、中荒井区民の方々が地域のどのようなところを誇りに持っているか、また、学生にどのようなことを期待しており、次年度どのような活動を行っていくかの指針を決めるための調査である。以下は、このアンケートの集計結果をまとめたものである。

#### 1. 中荒井地区をもっと元気にするために行いたいとはあるか？

(下線部は意見が多数あったもの)

- ・ 若者がいなく、将来が不安
- ・ 壮年層の結束に期待
- ・ 高齢者の一人暮らしで病院通いの手助けが欲しい
- ・ 子供が地元におらず、家の継承が不安
- ・ 雇用の場が欲しい
- ・ 未婚者の解消
- ・ 産地直売所の設立
- ・ 一人暮らし対策（雪かき等）
- ・ 福島大学のサテライト誘致
- ・ 遊休農地の活用と販売施設
- ・ 中荒井地区だけでなく南会津町全体の活性化
- ・ 地域資源の活用
- ・ 耕作放棄地の活用
- ・ 新しい工場の誘致ではなく、地元料理のPRに努め、老人会の人々が運営する古民家レストランなどを作り雇用を創出する。若い人が戻るといよりは老人が集まり活気がある地区にしたい
- ・ 鳥獣の被害対策
- ・ 自然体験を活かした訪客
- ・ 旧中荒井分校の活用
- ・ 高齢者の雇用の場
- ・ 青年会組織を発足し支援
- ・ 中荒井の河川に魚を放流し、川遊び特区を作る
- ・ 若者の定着
- ・ 空き家を若者に安く提供し、農業に目を向けてもらうきっかけを作る
- ・ 子供の憩いの場が必要

- ・非協力的な住民の参加を願う
- ・地域内のコミュニケーションを大切にしたい
- ・如活祭をさらに盛り上げる
- ・間伐材のさらなる利用
- ・老人と若者が交流できる遊び場（運動施設）が欲しい
- ・山を活かした林業事業を行いたい
- ・空気がきれい、農業ができるという良さを生かし、お金につながる事業

## 2. 学生へ向けてのご意見

- ・森林に関する仕事をしているので、サークルでの活動を大いに！
- ・中荒井の元気づくりにお力を
- ・地域活性にご活躍ください
- ・中荒井にしか良く育たない特産物の開発と、それを若い力を使い HP 等で宣伝していくこと
- ・森林整備の活動
- ・若い学生のアイデアを教えてほしい。何度も中荒井に来られる計画を作ってほしい
- ・山に親しむ活動を
- ・何度でも中荒井へ
- ・学生の企画で地域の子供との山学校事業などを作れば、山に対する子どもたちの理解も変わるのでないか
- ・割り箸の切れ端を使い、かつての夏休み小学校の工作体験教室をやる
- ・間伐材の活用は大変効果的なので貴サークルの活躍に期待
- ・これからも様々な行事に参加してください
- ・みなさんが気軽に来られるよう空き家対策を進めます
- ・総合的能力の向上に中荒井を活用してください。思考を深め問題解決能力を高めてほしいで
- ・少子高齢化が進んでいきます。分校を残し負の遺産とならないよう良い方法を考えてください